

平成26年度事務事業評価調書

整理番号	24	枝番	2
評価担当課	経済部耕地林務課		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	森林整備担い手対策推進事業			
総合計画の位置づけ	有 無	基本目標	4	創造力と活力にあふれたまちづくり
		主要施策	2	林業の振興
		基本事業	3	木材生産体制の整備拡大
		実施計画事業	2	森林整備担い手対策推進事業

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	森林作業委員の就労の長期化、安定化及び福利厚生向上を図る。					
対象(何を又は誰を)	対象期間中に林業で年間140日以上働いている事。就業先の事業主の方がこの事業に加入している事。当該年度の基準日で70才未満の森林作業員。					
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	森林作業員と事業主が1年間積み立てた掛け金に、就労日数に応じた市町村と道の助成金を加えて、奨励金として年末に支給する。					
意図(どのような成果を期待しているか)	就労の長期化、安定化を図るための奨励金の支給					
事業実施主体	名寄市					
事業実施方法	直 営	一部委託	全部委託	補助等	請負	その他()
事業実施期間	始期	年度	終期設定	有(終期 28年度)	無	
根拠法令・条例等						

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H23	H24	H25	H26見込	目標年度 (28年度)	
				目標	実績	目標	実績	目標	実績
活動指標	1		目標						
			実績						
	2		目標						
			実績						
	3		目標						
			実績						
成果指標	1	支給対象者 実際に市が負担した森林作業員の人数	人	目標	68	68	68	68	408
			実績	42	40	36	40		
	2	支給日数 実際に支払われた奨励金日数	日	目標	12,431	10,242	10,242	10,242	51,210
			実績		8,984	8,308			

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H23決算	H24決算	H25決算	H26予算	平成25年度の事業費内訳
事業費	1,259	1,165	1,096	1,171	森林作業員・事業主・市及び道が一定の掛金を負担しあい、就労日数に応じて奨励金を支給し、また作業員の就労日数に応じて福利厚生に係る経費を事業主へ助成。
国道支出金					
地方債					
その他					
一般財源	1,259	1,165	1,096	1,171	
人件費	334	331	323	323	
平均給与額	6,683	6,629	6,468	6,468	
担当職員数	0.05	0.05	0.05	0.05	
総事業費	1,593	1,496	1,419	1,494	
対前年比(%)	—	94	95	105	コストの算出方法
事業コスト	活動指標1				
	活動指標2				
	活動指標3				

※H26年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	
改善点	指摘事項 <input checked="" type="radio"/> 有 () <input type="radio"/> 無

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	b	森林の公益的機能を維持させていく上で林業に従事する人材確保が不可欠である。北海道と自治体および事業主が費用を負担し合い、就労者の福利厚生に係る経費を事業主へ助成することで林業従事者の確保および林業振興に貢献している。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	道内を範囲とした団体が事務局となり北海道、自治体、事業主の3者で実施している事業。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	林業従事者の福利厚生向上に貢献しているが費用対効果は不明。就労日数に応じ市が負担金額が決定される(事業主、北海道、自治体が各1/3負担)
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	a	事業主、北海道、自治体で各1/3の割合で費用負担している。林業従事者確保を図ることにより、地域の雇用促進につながっている。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	b	過去三年間の成果指標の達成率は57.8%で目標を下回っている。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	森林整備の担い手である森林作業員の就労条件を良くすることは、森林整備の推進はもとより、地域への定住促進や山村振興対策などにつながることから今後も継続する必要がある。	
A:現状のまま継続		
B:進め方を改善	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	
C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)		

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり